

どんぐりがころがるわけ

2-10-1-1 v8

なまえ

おんどくサイン

どんぐりを手にとると、丸く
てつるつるしています。木から
地めに落ちると、コロコロと
ころがっていきます。

どんぐりの中には、大きな実
がつまっています。だから、か
るい木の葉とはちがって、ころ
がる力が強くなります。

どんぐりは木のたねです。木
の下で芽を出すと、上の葉に
光をとられてしまいます。

遠くへころがれば、光のよく
当たるばしょに出られます。ま
るいかたちは、遠くへ行くため
のくふうなのです。

(1) 「つまって」のいみに合うものを一つえらび、
記ごうに○をつけましょう。

ア からっぽになつて

イ 外にこぼれて

ウ 中にいっぱい入って

エ うすくのびて

(2) どんぐりは、木の何ですか。一つえらび、
記ごうに○をつけましょう。

ア 木のたね

イ 木の花

ウ 木の根

エ 木のえだ

(3) どんぐりの中につまっているものは何ですか。
ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

(4) どんぐりが遠くへころがると、どんなよい
ことがありますか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜出られる。」でおわらせる。

「光」ということばをつかう。

大玉ころがし

2-10-1-2 v6

なまえ

おんどくサイン

運動会のれんしゅうで、わたしはたけしくんと大玉をころがしました。

走り出すと、玉は右へ右へとまがっていきます。二人とも力いっぱいおしているのに、まっすぐすすみません。

先生が「二人の手のばしよを見てごらん。」と言いました。見ると、わたしの手は玉のまん中、たけしくんの手ははしでした。おす力のむきがちがっていたのです。

つぎは、二人ともまん中をおしました。玉はまっすぐころがりました。わたしは、力のむきをそろえることをおぼえました。

(1) 「そろえる」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア ばらばらにする

イ 小さくする

ウ かぞえる

エ おなじになるようにする

(2) 玉がまっすぐすすまなかったのはなぜですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 玉が大きすぎたから

イ 風がつよかったから

ウ 玉がおもかったから

エ 二人のおす力のむきがちがったから

(3) わたしの手があったばしよはどこですか。ぶんしようにから三字で書きぬきましょう。

(4) つぎに、二人はどうしましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「くおした。」でおわらせる。

「まん中」ということばをつかう。

いものつる

2-10-1-3 v8

なまえ

おんどくサイン

学級園のさつまいもは、つるが長くのびて、地めんをおおっています。葉も大きく広がっています。

葉は、光をあびて元氣のもとを作ります。作ったものは、つるを通して下へ運ばれます。

運ばれたさきは、土の中の根です。根の一ぶがだんだんふって、さつまいもになります。

だから、いもは実ではなく、根のなかまです。

いもほりの前につるを切るのは、いもをほりやすくするためです。つるは、いもをそだてた大切な道だったのです。

(1) 「おおって」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 上からすっきりかぶせて

イ こまかく切って

ウ いろをぬって

エ もち上げて

(2) さつまいもは、どこがふとったものですか。一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 葉の一ぶ

イ つるの先

ウ 根の一ぶ

エ 花の中

(3) 葉が光をあびて作るものは何ですか。ぶんしょうから五字で書きぬきましょう。

(4) いもほりの前につるを切るのはなぜですか。書きましょう。

書くときのポイント

「くため。」でおわらせる。

「ほりやすく」ということばをつかう。

みかんのすじ

2-10-1-4 v7

なまえ

おんどくサイン

みかんの皮をむくと、白いすじがついてきます。じゃまだと思っおもて、ぜんぶとる人ひともいます。

あのすじは、木から実へ水みずを送おくる道みちです。えだの先さきから皮かわを通とおり、中なかのつぶまでつながっています。

みかんが太おおくなるあいだ、すじはずっとはたらいっていました。水みずを送おくりおえたあとも、そのままのかたちでのこっているのです。

すじには、体からだによいものも入はいっています。あじが少すこしにないので、きらい人ひともいます。それでも、じゃまに見みえるものにもやくめがあるのです。

(1) 「つながって」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア ばらばらになって

イ 切れないでつづいて

ウ かたくなって

エ 白くなって

(2) 白いすじは、木から実へ何を送る道ですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 空気

イ 水

ウ 光

エ 土

(3) 白いすじは、みかんのどこまでつながっていますか。ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

(4) このぶんしょうから、じゃまに見えるものについてどんなことがわかりますか。書きましょう。

書くときのポイント
「〜ある。」「〜で終わらせろ。
「やくめ」ということばをつかう。

おちばのプール

2-10-1-5 v7

なまえ

おんどくサイン

そうじの時間^{じかん}に、校^{こう}ていの落^おち葉^ばをあつめました。ほうきで
はくと、落^おち葉^ばは山^{やま}になりました。
た。

あつめおわると、まさとくんが
「プ^っールみたい。」と言^いいまし
た。ほんとうに、大^{おお}きな山^{やま}が三^{みつ}
つできています。

先生^{せんせい}が「もう一回^{いっかい}あつめられ
るなら、いいよ。」と言^いいまし
た。ぼくたちは、そつと山^{やま}の上^{うへ}
にすわりました。かさかさと、
かわいた音^{おと}がしました。

起^おき上^あがると、ふくに葉^はがく
つついています。ぼくたちは、
またほうきをもちました。こん
どの山^{やま}は、さつきより早^{はや}くでき
ました。

(1) 「くつついて」のいみに合うものを一つ
えらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア とんでいって

イ もえて

ウ はなれないでついて

エ ぬれて

(2) まさとくんは、落^おち葉^ばの山^{やま}を見て何^{なに}と
言^いいましたか。一つえらび、記^きごうに○を
つけましょう。

ア 「プ^っールみたい。」

イ 「あついいね。」

ウ 「かえろう。」

エ 「つめたいね。」

(3) 落^おち葉^ばをあつめるのにつかったものは
何^{なに}ですか。ぶんしょうから三字で書^かきぬきましょう。

(4) 山^{やま}の上にすわったとき、どんな音^{おと}が
しましたか。書^かきましょう。

書くときのポイント

「く音^{おと}がした。」でお知らせる。

「かさかさ」ということばをつかう。

はちみついろの色

2-10-2-1 v6

なまえ

おんどくサイン

はちみつには、うすい色いろのものと、こい色いろのものがあります。あじも少しすこずつちがいます。

はちみつは、みつばちが花はなのみつをあつめて作つくります。どの花はなからあつめたかで、色いろやあじがかわるのです。

れんげの花はなのみつは、うすい黄色きいろでさっぱりしています。そばの花はなのみつは、こげ茶色ちやいろでこくなります。

びんのラベルには、花はなの名なまえが書かいてあることがあります。色いろを見れば、みつばちがどの花はなを回まわったかわかるのです。

(1) 「あつめて」のいみに合うものを一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア 二つに分けて

イ 外へすてて

ウ ゆっくりふやして

エ いろいろなところから一つにして

(2) はちみつの色やあじは、何でかわりますか。一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア びんの大きさ

イ 作った日

ウ みつばちの大きさ

エ どの花からみつをあつめたか

(3) そばの花のみつは、何色ですか。ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

(4) はちみつの色を見ると、どんなことがわかりますか。書きましょう。

書くときのポイント

「わかる。」でお知らせる。

「花はな」ということばをつかう。

うんどうかいのおべんとう

2-10-2-2 v7

なまえ

おんどくサイン

運動会のお昼、家ぞくと木の
かげにすわりました。おべん
とうのふたを開けると、おにぎり
が五つならんでいます。

大きさは、ばらばらでした。ば
くは、いちばん小さいおにぎり
をとりました。走ったあとで、
おなかはやさしくなりました。

いもうとが「お兄ちゃん、そ
れでいいの。」と聞きました。ば
くは「いいよ。」と答えました。
ほんとうは、大きいのが食べた
かったのです。

帰るとき、おかあさんが「あ
した、大きいのをにぎるね。」と
言いました。見ていないと思っ
ていたので、ばくは少しはずか
しくなりました。

(1) 「ぺこぺこ」のいみに合うものを一つえらび、
記ごとに○をつけましょう。

ア とてもおなかやすいている

イ とても元気がよい

ウ おねがいっぱいだ

エ のどがかわいた

(2) ばくは、どのおにぎりをとりましたか。一つ
えらび、記ごとに○をつけましょう。

ア いちばん大きいおにぎり

イ まん中のおにぎり

ウ いちばん小さいおにぎり

エ どれもとらなかった

(3) おべんとうの中にならんでいたおにぎりは
いくつですか。ぶんしょうから二字で
書きぬきましょう。

(4) 帰るとき、おかあさんは何と言いましたか。
書きましょう。

書くときのポイント

「〜と言った。」でお知らせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

月の出る時こく

2-10-2-3 v7

なまえ

おんどくサイン

きのうゆうがたに見えた月が、きようはなかなか出てきません。月の出る時こくは、まいにちかわっているのです。

月は、およそ五十分ずつおそく出ます。きのうよりきようがおそく、きようよりあしたがおそくなります。

月は、地きゆうのまわりを回っています。地きゆうが一回回るあいだに、月も少し先へすみます。だから、そのぶんおそく出るのです。

月のかたちも、まいにちかわります。時こくとかたちを気にして空を見ると、月のうごきがわかってきます。

(1) 「およそ」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア ぴったり
イ だいたい
ウ まったく
エ やつと

(2) 月は、まいにちどれくらいおそく出ますか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 十ぶん
イ 五十ぶん
ウ 一時間半
エ 二時間

(3) 月がまわりを回っているものは何ですか。ぶんしようにから四字で書きぬきましょう。

(4) 月がまいにちおそく出るのはなぜですか。書きましょう。

書くときのポイント

「くから。」でおわらせる。
「月」ということばをつかう。

ススキのほ

2-10-2-4 v6

なまえ

おんどくサイン

秋^{あき}の野原^{のほら}で、ススキのほが白^{しろ}く光^{ひか}っています。近く^{ちか}で見^みると、細^{ほそ}い毛^けがたくさんついています。

毛^けのもとには、小^{ちい}さなたねが一つ^{ひとつ}ずつついています。毛^けは、たねのパラシュートです。ほ^{いっぽん}一本^{いっぽん}に、たねが何^{なんじつ}十^{じつ}こもついています。

風^{かぜ}がふくと、たねは毛^けごとなれて空^{そら}へまい上^あがります。とてもかるいので、川^{かわ}のむこうまではこばれることもあります。

春^{はる}になると、はこばれたさきで芽^めが出^でます。ススキがあちこちに生^はえているのは、風^{かぜ}にたねをあずけてきたからです。

(1) 「まい上がります」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 地めんにおちる

イ まるくなる

ウ ふわりと高くのぼる

エ 止まる

(2) ススキの毛のものとについているものは何ですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア 小さなたね

イ 水のつぶ

ウ 虫のたまご

エ 花びら

(3) ススキの毛は、たねの何だと書いてありますか。ぶんしょうから六字で書きぬきましょう。

(4) ススキがあちこちに生えているのはなぜですか。書きましょう。

書くときのポイント

「くから。」でおわらせる。

「風^{かぜ}」ということばをつかう。

なわとびのひも

2-10-2-5 v8

なまえ

おんどくサイン

休み時間になわとびをしました。かりたなわは、わたしには長すぎました。回すと、はしがゆかをたたいて音がします。

何回とんでも、すぐに足に引っかかります。前にとべた数の半分もとべません。

見ていた六年生のお姉さんが、「むすんでみたら。」と言いました。手の近くで、ひもを一回むすんでくれました。なわが短くなりました。

もう一度回すと、ゆかをたたく音がしません。二十回つづけてとべました。長さが合うだけで、こんなにちがうのだと思いました。

(1) 「引っかかります」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。
ア どこまでもすすむ
イ 高くとび上がる
ウ のびて長くなる
エ ものにぶつかって止まる

(2) なわが長すぎると、どうになりましたか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。
ア とてもよくとべた
イ なわが切れた
ウ なわが見えなくなった
エ はしがゆかをたたいて音がした

(3) なわをむすんでくれたのはだれですか。ぶんしょうから八字で書きぬきましょう。

(4) なわをむすんだあと、どうになりましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜とべた。」でお知らせる。
「二十回」ということはをつかう。

かかしのやくめ

2-10-3-1 v6

なまえ

おんどくサイン

いねのみのった田んぼに、かかしが立っています。ぼうしをかぶり、ふるいふくをきています。

かかしは、米を食べにくる鳥をおいはらうために立てられました。遠くから見ると、田を見はる人のように見えます。

ところが、いつも同じばしよに立っていると、鳥はだんだん慣れてしまいます。かかしのかたにとまる鳥も出てきます。そこで、ときどきばしよをかえたり、ふくをとりかえたりします。かかしは、立てておくだけではやくに立たないのです。

(1) 「おいはらう」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア おって遠くへ行かせる

イ よんであつめる

ウ そだててふやす

エ かこんでまもる

(2) 鳥がかかしになれてしまうのはなぜですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア かかしが小さいから

イ かかしが白いから

ウ いつも同じばしよに立っているから

エ 田んぼが広いから

(3) かかしがかぶっているものは何ですか。ぶんしよから三字で書きぬきましょう。

(4) 鳥がなれないように、どんなことをしますか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜する。」「〜おわらせる。」

「はしよ」ということばをつかう。

てつぼうのまめ

2-10-3-2 v7

なまえ

おんどくサイン

さかあがりができるようにな
りたくて、まいにちてつぼうに
ぶら下さがりました。手てがいたく
なっても、つづけました。

一いっしゅうかんたった朝あさ、手ての
ひらに小ちいさなまめができていま
した。おかあさんに見みせると、
「がんばったしるしね。」と言いい
ました。

あくる朝あさ、まめがつぶれてひ
りひりしました。てつぼうをに
ぎると、少すこししみます。わたし
は、かた手てずつゆっくり回まわりま
した。

三日目みっかめの昼休ひるやすみ、体からだがするり
と上うえにあがりました。さかあが
りができたのです。手てのひらの
まめは、まだかたくのこってい
ました。

(1) 「するりと」のいみに合うものを一つえらび、
記ごうに○をつけましょう。

ア おもたくゆっくり
イ なめらかにかるく

ウ 音を立てて

エ 少しずつ何回も

(2) 手のひらにまめができたのはいつですか。一つ
えらび、記ごうに○をつけましょう。

ア はじめた朝

イ 一しゅうかんたった朝

ウ あくる朝

エ 三日目の昼休み

(3) おかあさんは、まめを何だと言いましたか。
ぶんしょうから八字で書きぬきましょう。

(4) 三日目の昼休みに、どんなことが
できましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜できた。」でお知らせる。

「さかあがり」ということばをつかう。

いねかりのあと

2-10-3-3 v6

なまえ

おんどくサイン

いねかりがおわった田んぼは、切りかぶだけがならんでいます。金色だった田が、いっぺんに広く見えます。

かり取ったいねからは、まず米つぶをとります。のこったくきや葉が、わらです。わらは、すてられません。

わらは、たばねてなわになります。牛のしきわらにもなります。畑にすきこむと、土の中でくさってこやしになります。

切りかぶからは、また細い芽が出てきます。あたたかいとしには、小さなほがつくこともあります。

(1) 「たばねて」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア こなにしてい

イ 水にうかべて

ウ まとめてしばって

エ もやして

(2) いねから米つぶをとったあとにのこるものは何ですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア くきや葉

イ 根

ウ 花

エ 水

(3) わらを畑にすきこむと、何になりますか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) いねかりがおわった田んぼは、どう見えますか。書きましょう。

書くときのポイント

「く見える。」でおわらせる。

「切りかぶ」ということばをつかう。

うろこぐも

2-10-3-4 v7

なまえ

おんどくサイン

秋あきの空そらを見み上げると、小ちいさな白しろい雲くもがたくさんならんでいることがあります。魚さかなのうろこのように見みえるので、うろこぐもとよばれます。

この雲くもは、とても高たかいところ
にできます。地ち上じやうから五ご千せんメー
トルより上うえです。

高たかいところは、とてもさむい
ばしです。だから、うろこぐも
は水みづのつぶではなく、小ちいさな
氷こおりのつぶでできています。

うろこぐもが出でたあと、天てん気き
がくずれることがあります。む
かしから、この雲くもは雨あめのしらせ
と言いわれてきました。

(1) 「しらせ」のいみに合うものを一つえらび、
記きごうに○をつけましょう。

ア もうおわったことのきろく
イ だれにも見えないもの

ウ 空にかかるはし

エ これからおこることをつたえるもの

(2) うろこぐもは、何なにでできていますか。一つ
えらび、記きごうに○をつけましょう。

ア 水のつぶ

イ すな

ウ けむり

エ 小さな氷のつぶ

(3) うろこぐもは、何なにのように見えますか。
ぶんしょうから五字で書きぬきましょう。

(4) うろこぐもが出でたあと、どんなことが
ありますか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜ある。」でお知らせる。

「天気」ということばをつかう。

かえりのかい

2-10-3-5 v6

なまえ

おんどくサイン

かえりのかいで、わたしは今日のふりかえりを話すことになりました。何も考えていなかったのも、頭の中が白くなりました。

「えっと、その、たのしかったです。」それだけ言って、すわってしまいました。となりの子が、小さくうなずいてくれました。

家に帰って、わたしはノートに三つ書きました。図工でねん土をこねたこと。給食をおかわりしたこと。そうじでまどをふいたこと。

つぎのかえりのかいで、わたしはそのノートを見ながら話しました。三つとも言えました。すわったとき、手が少しあつくなっていました。

(1) 「こねた」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 手でよくまぜてやわらかくした
イ ならべてかぞえた

ウ 高く積み上げた

エ 水でながした

(2) つぎのかえりのかいで、わたしはどうしましたか。一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 何も言わなかった

イ 先生に話してもらった

ウ ノートを見ながら話した

エ となりの子と話した

(3) はじめのかえりのかいで、わたしが言えたことは何ですか。ぶんしょうから八字で書きぬきましょう。

(4) はじめのかいとつぎのかいで、話し方はどうかわりましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「く言えた。」でお知らせる。

「三つ」ということばをつかう。

もみじの手^て

2-10-4-1 v6

なまえ

おんどくサイン

もみじの葉^はを一^{いち}まいひろつて、手のひらにのせてみましよう。じぶんの手^てとそっくりのかたちです。

葉^はのさきは、五^{いつ}つにわかれて
います。まん中^{なか}がいちばん長^{なが}
く、外^{そと}がわへ行くほど短^{みじか}くなり
ます。ゆびと同じ^{おな}ならびです。

このかたちだと、どのさきにも光^{ひかり}が当^あたります。葉^はどうしが
かさなり合^あわないので、一^{いち}まいで
むだなくはたらけます。

もみじという名^な前は、「もみ
づ」というふるいことばからき
ました。秋^{あき}に色^{いろ}がかわるようす
をあらわすことばです。

(1) 「そっくり」のいみに合うものを一つえらび、
記^きごうに○をつけましよう。

ア まったくちがう

イ とてもよくにている

ウ とても小さい

エ だんだんかわる

(2) もみじの葉^はのさきは、いくつに
わかれていますか。一つえらび、記^きごうに○を
つけましよう。

ア 三^{さん}つ

イ 五^ごつ

ウ 六^{ろく}つ

エ 七^{しち}つ

(3) もみじの葉^はのさきで、いちばん長いところは
どこですか。ぶんしょうから三字で書きぬきましよう。

(4) さきがわかれていると、どんなよいことが
ありますか。書きましよう。

書くときのポイント

「〜当^あたる。」でお知らせる。

「光^{ひかり}」ということばをつかう。

二人で一つのかさ

2-10-4-2 v7

なまえ

おんどくサイン

帰り道で、急に雨がふってきました。わたしはかさをもっていましたが、みきちゃんもっていません。

「入って。」と言って、かさを高く上げました。二人で入ると、かたがつかえてうまく歩けません。

しばらくすると、みきちゃんのかたがぬれていることに気づきました。わたしは、かさをみきちゃんのほうへかたむけました。

家につくと、わたしの右のそでがぬれていました。みきちゃんは「あしたはわたしがつてくる。」と言いました。雨の音が、少し明るく聞こえました。

(1) 「つかえて」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア つめたくなって

イ かるくなって

ウ ものに当たって先へすすめなくなって

エ からまって

(2) わたしは、かさをどちらへかたむけましたか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア みきちゃんのほう

イ じぶんのほう

ウ 上のほう

エ 後ろのほう

(3) 家についたとき、ぬれていたのはどこですか。ぶんしょうから四字で書きぬきましょう。

(4) みきちゃんは、さいごに何と言いましたか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜と言った。」でお知らせる。

ぶんしょうのことをそのままつかってよい。

セーターがちくちくするわけ

2-10-4-3 v7

なまえ

おんどくサイン

さむくなつて、たんすからセーターを出だしました。首くびのあたりがちくちくして、気きになります。

セーターのいとは、ひつじの毛けでできています。毛けを近ちかくで見ると、一本いっほんずつ先さきが細ほそくがつています。その先さきが、たくさん外そとをむいています。

とがった先さきがはだに当あたると、ちくちくとかんじます。太ふとい毛けほどかたいので、よけいにかんじます。

下したにうすいシャツをきると、毛けの先さきがはだにときません。それだけで、ちくちくは少すくなくなります。ふゆのしたくは、この一いちまいから始はじまります。

(1) 「とがって」のいみに合うものを一つえらび、記しごうに○をつけましょう。

ア 先さきがまるくなくて
イ みじかく切きられて
ウ やわらかくぬれて
エ 先さきが細ほそくするどくなつて

(2) セーターのいとは、何なにからできていますか。一つえらび、記しごうに○をつけましょう。

ア 木きのかわ
イ 紙かみ
ウ すな
エ ひつじの毛

(3) どんな毛けほどかたくなりますか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

(4) ちくちくを少なくするには、どうすればよいですか。書きましょう。

書くときのポイント

「〜きる。」「で おわらせる。
「シャツ」ということばをつかう。

ほうきの先^{さき}

2-10-4-4 v6

なまえ

おんどくサイン

そうじのほうきをならべると、先^{さき}がななめになったものがあります。まっすぐなものもあります。

ほうきは、はくたびにゆかとかすれます。いつも同じ^{おな}むきではいていると、当^あたるがわだけがすりへります。

先^{さき}がななめになると、ゆかにつくところがへります。ごみをあつめる力^{ちから}がよくなります。

そこで、ときどき手^てのむきをかえてはきます。しもうときに立て^たておくと、先^{さき}がつぶれません。ほうきは、つかいかたでもちがかわります。

(1) 「すりへります」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア こすれて小さくなる

イ 水をすっておもくなる

ウ まがつてかたくなる

エ 白く色がかわる

(2) ほうきの先がななめになるのはなぜですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア あたらしいから

イ 水にぬれたから

ウ いつも同じむきではいているから

エ 長くしまっていたから

(3) 先がななめになると、何をあつめる力がよくなりますか。ぶんしょうから二字で書きぬきましょう。

(4) ほうきを長くつかうには、どうすればよいですか。書きましょう。

書くときのポイント

「はく。」でかわらせる。

「むき」ということはをつかう。

あきの虫とり

2-10-4-5 v6

なまえ

おんどくサイン

日曜日^{にちようび}に、弟^{おとうと}と原^{はら}っぱへ虫^{むし}とりに行^いきました。草^{くさ}の中^{なか}から、バッタが^だつぎつぎにとび出^でします。

わたしは、大^{おお}きなバッタを一^{いっ}ぴきつかまえました。かごに入^いれると、弟^{おとうと}が顔^{かお}を近^{ちか}づけてじっと見^みました。

家^{いえ}に帰^{かえ}る前^{まえ}、弟^{おとうと}が「この子^こ、草^{くさ}を食^たべるかな。」と言^いいました。かごの中^{なか}には、草^{くさ}が入^{はい}っていません。わたしは、少^{すこ}しまりしました。

二人^{ふたり}で、かごのふたを開^あけました。バッタは大^{おお}きくはねで、草^{くさ}のおくへきえました。弟^{おとうと}は「また来^こよう。」と言^いいました。

(1) 「つぎつぎに」のいみに合うものを一つ

えらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア たった一回^{いちど}だけ

イ あとからあとからつづけて

ウ しずかにゆっくり

エ だんだん少^{すく}なく

(2) 弟は、かごを見て何^{なに}と言^いいましたか。一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア 「大きいね。」

イ 「この子^こ、草^{くさ}を食^たべるかな。」

ウ 「もう帰^{かえ}ろう。」

エ 「もう一^{いち}ぴきとろう。」

(3) わたしがつかまえたバッタは何^{なん}びきですか。ぶんしようにから三字^{さんじ}で書^かきぬきましょう。

(4) さいごに二人^{ふたり}はどうしましたか。書^かきましょう。

書^かくときのポイント

「ゝした。」でおわらせる。

「ふた」ということばをつかう。